

IPM実践指標(ブルーベリー)記入表

平成 年産

氏名(団体名):

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄(注1)			解説の有無
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
【基礎項目】 全てのIPM実践者が取り組むべき基礎的な項目						
(1)開園						
園地立地条件の確認	園地周辺の放任園(樹)などが病害虫の重要な発生源となる危険性がある場合には、関係機関や関係者間の協議により放任園解消に取り組む。	1				
健全な苗木の利用	紋羽病、カイガラムシ類などの病害虫の感染・寄生がない健全な苗木を植栽する。	1				
(2)園地の管理						
間伐	適宜間伐を行い適正な栽植密度とし、病害虫の発生しにくい環境をつくる。	1				
発生源の除去	病害虫の被害を受けた落葉・剪去枝・枯れ枝などは園外へ搬出するなど、適切に処分する。【必】	1				
土壌管理	白紋羽病発生園では、有機物マルチを株元に施用しない。	1				
(3)休眠期の管理						
整枝・剪定	風通しの悪い園では斑点病やバルデンシア葉枯病などの発生が多くなるため、樹冠内部の通風・採光を良好にして病害虫が発生しにくい環境をつくり、あわせて薬液散布時の死角をなくす。【必】	1				
マシン油の散布	カイガラムシ類対策として、休眠期にマシン油乳剤(登録内容を確認)による防除を実施する。【必】	1				
(4)薬剤の選択、散布						
薬剤の選択と効果確認	薬剤抵抗性の発現を防止するため、作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する(同一系統薬剤の連用を避ける)。【必】	1				○
	発生病害虫に対応して薬剤を選択する。殺虫剤を散布する前に害虫発生地点に目印を付け、散布後に効果の確認を行う。【必】	1				
	雑草の種類、生育を確認し、適切に除草剤を使用する	1				
散布方法	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となるよう最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定する。【必】	1				
	降雨日の多少により殺菌剤の散布間隔を調整する。	1				
	農薬散布は風の強くないときに行い、散布むらが生じないように丁寧な散布を心掛ける。	1				
(5)生育期間中の管理						
被害部の除去	灰色かび病や炭疽病、ショウジョウバエ類などの被害果を発見した場合は早期に処分する。また、バルデンシア腐敗病が発生した吸枝(サッカー)は、被害拡大防止のため早期に切除する。【必】	1				○
害虫の捕殺	園内を定期的に見回り、カイガラムシ類、ケムシ類、イラガ類、コウモリガなどの卵塊、幼虫、成虫を捕殺する。	1				
下草管理	下草が繁茂するとコウモリガの発生が多くなるため、特に主幹部周辺に下草を残さないよう、こまめに除草する。	1				
適正な樹勢の維持	白紋羽病は樹勢が衰弱すると発病しやすいので、適樹勢を維持する。【必】	1				
適切な収穫	灰色かび病などの果実腐敗性病害の感染防止のため、降雨中など果実が濡れている時に収穫しない。	1				
	収穫が遅れると、ショウジョウバエ類の発生源となることがある。適熟果は速やかに収穫し、被害果や落果は全て回収して適切に処分する。	1				○
(6)施肥管理						
施肥管理など	樹勢や根の活性を良好に保ち、病害の発生しにくい樹体にするために、園地の土壌診断や樹の生育状況に基づいて適正に施肥する。	1				

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄(注1)			解説の有無
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
(7)情報管理など						
病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除所、農業改良普及センター、農業協同組合等が発表する発生予察情報を入力し、それに基づき防除判断する。情報はファイルするなどして保管する。【必】	1				
生育状況の把握	最適な散布時期を判断するため、展葉期、開花期、落花期を把握する。【必】	1				
作業日誌	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、希釈倍数・使用量、散布方法、使用時期などのIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。【必】	1				
研修会等への参加	県や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加する。【必】	1				
【応用項目】 積極的なIPMの実践において取り組むべき項目						
防除要否の判断	ほ場内を見回り、病害虫の発生を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否・時期を判断する。【必】	2				
防除時期の判断	粘着バンドトラップなどを用いてカイガラムシ類の発生消長を把握し、防除時期を判断する。(注2)	1				○
合計点数(注3)						
対象IPM計(注4)						
評価結果						

(注1)チェック欄には、実施した場合には点数を、しなかった場合には0(ゼロ)を記す。対象外には「-」と記す。

(注2)カイガラムシ類については、枝に白いビニールテープを巻きその上に両面テープを巻いた粘着バンドトラップ法でふ化幼虫の消長がみられる。ハダニ類および天敵カブリダニ類については、新梢を叩いて黒い板上に虫体を落下させ観察することによって発生動向を知ることができる。

(注3)毎年度実施する管理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数を記入し、また毎年度実施しない管理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数は()内に記入する。例20(3)

(注4)毎年度実施する管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる管理ポイントの合計点数を記入し、また毎年度実施しない管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる管理ポイントの合計点数を()内に記入する。例20(3)